

C型肝炎

知ろう 治そう

先生にお聞きしました。

C型肝炎で苦しむ人がゼロになる日を目指して。

C型肝炎 ZERO

全国で百五十万人の患者がいるといわれているC型肝炎。このシリーズでは、C型肝炎の特徴や治療方法について、五回シリーズで、C型肝炎を専門としている県内の五人の医師に、Q&A形式でインタビューをします。第一回はクリニック地球33番地の前田隆先生にC型肝炎ウイルス感染後の経過と検査についてお伺いしました。



5回シリーズ VOL.1 クリニック地球33番地 院長・医学博士 前田 隆氏

Medical Interview

Q C型肝炎に感染するとどのような経過をたどるのでしょうか？

ほかの肝炎ウイルスに感染すると、急性肝炎になった後、治る場合が多いですが、C型肝炎は七割以上の確率で肝炎が慢性化します。すると肝臓の組織がどんどん壊れていき、早い人で二十年から三十年、遅い人では五十年ぐらいで肝硬変、肝がんへと進行していきます。問題は知らないうちに病状が進んでいくこと。肝臓は「沈黙の臓器」といわれるぐらい予備能(炎症などが起きてても、本来果たす能力が残っていること)があり、自覚症状が出ないことが多く、気がついたときには肝硬変になり、食道動脈瘤ができて破裂したり、肝がんを発症するということになりかねません。

A 慢性肝炎が進行していくと肝がんになる確率が高いことは統計的にも分かっています。軽度の慢性肝炎の場合、十年で肝がんになる確率は5%程度、中度では20%、高度では50%となり、肝硬変まで進行すると70%から80%という、非常に高い確率になります。がんは早期発見、早期治療が原則ですから、肝臓の状態が悪ければ、画像診断やエコー、CTなど詳しい検査を一年のうちに四回も五回も行いう必要が出てきます。

Q C型肝炎に感染しているかは、どうすれば分かるのですか？

極端な言い方をすれば、血液を一滴調べるだけで分かります。これをHCV抗体検査といいますが、結果はその日のうちに出ます。現在、B型、C型肝炎ウイルスの検査は保健所や県内の医療機関において無料で受けることができます。それだけ潜在的な患者数が多く、肝硬変や肝がんなどに進行すると、多くの治療費がかかり、個人的な負担が大きくなるだけでなく、医療経済を圧迫していくことにもつながるので、重要な施策だと思います。

検査の対象となる人は特に決められてはいませんが、過去に大きな手術や輸血を受けたことがある人、入れ墨やピアスを施している人などは感染のリスクが高いので、一度検査を受けることをおすすめします。また、年齢が高い人の場合、昔はワクチン注射などは針を替えずに注射を行っていましたので、そのときに感染した可能性もあります。

HCV抗体検査で陽性が出たら、次は、現在もウイルスに感染しているのか、過去に感染していたすでに治癒しているのかをHCV-RNA検査で調べ、さらにウイルスの存在が確認されると、肝臓の状態や肝がんがないかなど詳細な検査が必要になってきます。

企画・制作／高知新聞社広告局

今回は10月12日掲載予定です。

HOME PAGE
あなたにあった治療法がきっと見つかります
詳しい内容はこちら 検索
<http://www.kanenzero.jp/>

PRESENT
〈小冊子〉すぐ分かる・くわしく分かる「C型肝炎Q&A」を差し上げます
[C型肝炎ZEROコールセンター] (受付時間9:00~19:00)
 0120-511-760

中外製薬
 ロシュグループ